

令和元年度第5回 恵庭市史編さん委員会会議 会議録

日 時:令和2年2月6日(木) 15:30～16:30

場 所:市民会館1階 第1会議室

出席者:<委員> 北越会長、山田副会長、曾根委員、中泉委員、平中委員、山口委員、
江里口委員、高橋委員、宮田委員

<事務局> 企画振興部長 大槻、企画振興部次長 大西、広報課主幹 橋場、
広報課非常勤職員 山田

<業務受託者>㈱ぎょうせい 対馬、村上、佐藤

傍聴者:なし

※以下、出席者の発言内容については要旨を記載。

※北越会長が市議会経済建設常任委員会延長により遅れて出席、山田副会長の進行で開催。

議 題:

■報告事項

(1) 前回会議にて挙げた意見に関する検討状況について

■協議事項

(1) 市史原稿の内容について

- ① 第5編「産業」第3章「林業」
- ② 第5編「産業」第4章「内水面漁業・養殖業」

(2) 市史原稿執筆内容の方向性について

第2編第1章「考古学から見た恵庭」、第2章「古代・中世の恵庭」

会議内容(要旨):

●報告事項(1) 前回会議にて挙げた意見に関する検討状況について

※下記のとおり事務局より説明し、委員全員了承

○【「6編3章 上下水道」】

- ・p.2 「島松地区は泥炭層で組成されている地域が多く」の記述について
～地層が不明であるという意見があったので修正する。
- ・p.4 「植生物の表記について」
～「植物」に修正する。

- ・「予定処理人口等の記載が無いことについて」
～修正する。
- ・「合流式下水道の記述について」
～現在本市では「合流式下水道」を全て「分流式下水道」に変更するべく年次計画で整備を行っている。当状況について加筆する。
- ・「決算の状況が分かりにくいことについて」
～他の一般会計なども含めて、どこに何を載せるのか検討中である。
- 【「6編2章 道路・公園」】
- ・「掲載写真について」
～恵庭公園、恵み野中央公園の写真を分かりやすいものに差し替える。
- 【「5編7章 観光」】
- ・「農業組合の表記について」
～「農業協同組合」に修正する。
- ・「インクラインの滝について」
～記述が少なかったので、以前は一大観光地だった旨を調べて追記する。
- ・「青年会議所関係の記述について」
～青年会議所の10周年事業としてサクラの植樹が行われたことについて検討し、追記する。
～青年会議所の記述については「青空天国」のことなども追記する。
～すずらん踊りについては地域との関わりが大きいイベントなので更に追記をする。
また、11編の「郷土芸能」の項目でも書かれるので、重複などに留意する。

●協議事項（１）市史原稿の内容について

○ 第5編「産業」第3章「林業」

※誤植等を事前説明

※質疑応答 なし

○第5編「産業」第4章「内水面漁業・養殖業」

※協議開始前に事務局より、以下について補足説明

「p. 3～「千歳中央孵化場」から「さけます内水面水産試験場」に繋がり、恵庭に建設されたが、現状の記述では千歳の孵化場が既に無くなったような印象を受ける。
これを解消するため、現在も千歳には別組織である国のさけますに関する施設があることを追記する」

<質疑応答>

- ・「p. 5 ページの図表 5-4-2 について」稚魚を放流する数は昭和 53 年頃からおおよそ一定になっているのに対し、捕獲数は上下の変化が大きいのは何故か。
～（事務局）内水面試験場の方に伺ったところによると、捕獲数は放流した稚魚が帰ってくる数よりも、自然産卵の数が圧倒的に多い。放流した稚魚が帰ってく

る数は、全体のほんの数パーセントでしかないとのこと。自然産卵のサケの数までを把握できていないので、捕獲数の上下に影響すると思われる。

・サケはだいたい3年スパンで帰ってくるので、グラフはだいたいまっすぐになるのかと思っていたが。

～（事務局）放流数と比例するように思えるが、川を改修することでサケが昇りやすくなるなどの要因が大きい。

●協議事項（2）市史原稿執筆内容の方向性について

第2編第1章「考古学から見た恵庭」、第2章「古代・中世の恵庭」

※協議開始前に事務局より、以下について補足説明

「執筆業者からの『準備稿』が、難解な漢字や専門用語が多く、事務局で調べてみたものの、他編同様の校正をして、執筆業者に戻してレイアウトをし、それを各委員に送り確認して貰う流れをとるのは困難だった。

事務局が気になった個所は、『他の編・章と比べ改行や点が少ないことを含め、難解な用語も多く読みづらいこと』、『カリンバ遺跡等は他の編にも出てくる（11編「文化財」など）。これらの重複する部分をどうするか』、『2編2章の内容がほとんど恵庭以外の地域の話であること』などである。

原稿は他の編・章の確認とは違い、あくまで事務局が校正を行っていない準備稿である。『この原稿のまま進めていいのか』という全体的なことを伺い、それから事務局の校正に入りたい」

<質疑応答>

・第1章「考古学から見た恵庭」の縄文時代、続縄文時代以降とで書き方が異なっている。筆者の経験の差が出ている。しかし、第三者に書き直せというのは無理。

第2章「古代・中世の恵庭」は恵庭とどこが関係あるのか？と思うが、北海道の古代を語る遺跡の説明をしようとするこのような文章に。東北や、中央の歴史の中でどう変わってきたかが必要。

土器の形式名を言えば、いつの時代でどの地域が中心だったことなどが分かるが、これは考古学者でないと分からない。しかし考古学者は大学で形式学しか教えておらず、歴史を教わっていないため、それを説明できない。土器、石器の変化が分かっても、人の変化が分からない。そのような日本の考古学の現状が背景にある。

～（事務局）明らかに書いている人が違うと思われ原稿を4つに分け送付した。

前触れが長い、など書く人の癖が出ている。これをどうすればよいか。

・前触れが長いのは「こういう状況の中で遺跡や土器ができていく」ということを説

明するためで、前提なくいきなり書くと意味が通じなくなる。

私自身もこれをどのように整理したらよいか悩んでいる。市史発刊まで時間があるなら執筆者とやりとりができるが、あと半年で修正は厳しい。

- ・この原稿のまま載せていいものか疑問に思った。通して読んだが、分からない漢字があまりにも多い。これを変えるわけにいかないのなら、少なくともルビを。

本文中や、カッコで専門用語の簡単な説明ある個所も。そのように説明を書くのが大切だと思う。しかし一市民が読むと漢字の読み方や意味でつまずいて、読まなくなる。読んで貰わなくてはせっかく出しても勿体ない。

古墳の出土品の説明が多く、たくさん形式があって混乱する。わざわざ時代を説明するために、出土した土器の形式を用いているような書き方に感じた。少なくとも恵庭市民がすらすらと読めるようにしてほしい。

- ・最初に河川ごとの遺跡の特徴の記載がある。河川ごとに遺跡の分布の違いはあるが、読者は分からなくなる。調査の歴史ではなく、本文中で「河川ごとにこのように遺跡とその特徴がある」とさらっと流して書けないか。

調査の歴史でどのような経緯があり、旧石器時代、縄文時代と変わっていくのか、と書き進めればもう少し理解できる内容になるのでは。

- ・前の恵庭市史の書き始めの方が、物語で読みやすい。今回は歴史書のようなのだ。

- ・前恵庭市史の時は、遺跡の調査が限られていた。その後、多くの遺跡が出てきて詳細が分かってきた、ということが今回の執筆者の頭にあるので、このような文章になる。読み手には前の市史のほうが遺跡の数も少なく、物語だったので、読みやすい。

今の原稿は詳細すぎるので、もう少し大雑把にまとめて貰えれば読みやすくなるのでは。遺跡の変遷が中心で、これでは当時の生活が読み取れない。

- ・時間的に余裕が無いことを理由に、物事を解決するのは寂しい。これは学問的には素晴らしい原稿だが、市史としては難しすぎて、市民が期待する恵庭市史にはならない。時間を伸ばしてでも市民が分かりやすいものを作るのがよいのでは。

- ・この原稿は学術論文のようで、よほど考古学を好きな人でないと読み進めない。原稿を学者に書かせるべきではなかったのかも。簡単な知識があって説明をしてくれる方が市史としては有難かった。それらをまとめて、均して書く人間がもう一人いないと（読みやすくない）。今の段階では市史として読もうとは思わない。

当時の人々の生活はこうだったのではないか、その根拠としてこういう土器を使っていた、という土器の形式の引用をすれば市史としての意味がある。今のままだと土

器の歴史になってしまう。これを時間が無いからそのまま市史として出すのは、読まないで欲しいとなりかねない。

- ・執筆者が違うから、随所に同じような文章が出てくるのが無駄だ。
- ・何人かで書く場合、そういった調整が必要になるが、この原稿はその調整がされていない。
- ・一人、編集者というか、責任を持つ者がいないと全体の統一が取れない。
- ・この原稿は最初予定していたボリューム的には問題ないのか。

～（業務受託者）このくらいで問題ない。

- ・執筆者に依頼した方も、どの程度のものを依頼したのかとなりかねない。
- ・恵庭の遺跡は、北海道の歴史を勉強する人に非常に重要な部分。恵庭市史というのは市民のためのものであることは勿論である。しかし、例えば「カリンバ遺跡」を知りたければ、誰でも必ず恵庭市史を見る。「恵庭市史ではカリンバ遺跡をどう捉え、どのような研究がされているか」が分かるように提供する役割がある。
読みやすい、分かりやすい内容は当然だが、「動植物」、「地質」の項目も分らない箇所が多かった。しかし、研究者がリストさえ見れば恵庭市全体の動植物が分かるということで、リストを入れた経緯も。そのようなことも考えないといけない。
ストーリー的に「こんな時代だった」と分かるのもよいが、それだけで恵庭市史の価値としてよいのか。特に考古学は文献とは違う。今回の原稿は第1章が考古学で、第2章は文献から見ているので、同じことを書いていても大きく違うし、推定、推論が展開できるなど少し融通が利く。

考古学の担当に言われたことがあるのは、土の中に埋まっているものは人々使った毛皮や食べ物などの有機物は全く残らない。土器しか残らない。そこからしか書けないので文献とは違う書き方にならざるを得ない。考古学者は「こういう生活をしていたのではないか」という推論を書けないのがもどかしい。

- ・日本の考古学の場合、そのような研究を怠ってきた考古学者の責任もある。大学で形式論しか教わらず、文化論が忘れられている。

私自身昭和50年代頃、出土品を洗って花粉の化石を出し、食べかすを調べ、当時どのような植物を食べていたのか調べる等したが、考古学者は関心が無かった。それまで北海道の食生活は、サケシカ論と言って「北海道の人はサケとシカを食べていた。

植物は食べていない。」という。ところが調べていくと縄文時代、少なくとも八千から九千年くらい前には植物を利用していいことが分かった。そのような研究を考古学者が怠ってきた。科学が進んで色々な分析ができるようになり、今ではかなり分かるようになった。それでもまだ完ぺきではなので、言い切れないことはたくさんある。

- ・確かに恵庭は遺跡が多くあり、恵庭市史の中でも重要な部分である。北海道の歴史の中でも重要である。だからこれだけ長くなるのも仕方がないのか、とも考える。
今後の方向性をどうするかだけでも決めないと、どうするか事務局が一番困る。

- ・恵庭の遺跡は北海道の中でも重要なものが多い。恵庭で分かりやすいのは河川の周りごとに遺跡があって、それが後のアイヌの時代まで続いてくる。それを説明するためにはこのような書き方しかないのでは。

～（事務局）1月に入り、11編「文化財」の原稿が届いた。その中にもカリンバ遺跡の説明、出土品、恵庭の文化財、埋蔵文化財等が書かれている。端的にこういう遺跡があって、出土品があって、と要約された書き方で、こちらの方が読みやすかった。その11編との重複の扱いにも苦慮している。

事務局で出た案は、2編1章・2章の「難しい言葉は辞書のようなページを用意して調べられるようにする」、また今までは「難読の漢字には初出だけルビを振っていたが、ページが進むと分からなくなるので工夫を」、と考えている。

- ・（現在の原稿には）専門用語の説明が全くない。

～（事務局）どこかにその辞書機能的な一覧があれば、それを見ながら読めるのではないか。例えば読む人は「チャシ」の言葉を見て「チャシって何だろう」という疑問で終わってしまう。

- ・用語の説明がかなり必要になる。それがないと何を書いているのか分からない。

～（事務局）4節には本文中のところどころに説明を入れているが、他の説は入っていない。

- ・以前「恵庭の昆虫」の時に細かすぎると問題になった。あれは3、4ページと短かったからとそのまま通したが、あの時と同じだと思う。どの層を読み手として想定し書いているかによる。専門家を相手にして書くのなら説明は不要くらい常識的なことである。

- ・まず、物量的に普通の人はこんなに読めないだろうということ。カリンバ遺跡関係は重要な出土品が多いので長く書いていると思うが、遺跡発見までのプロセス(P28、9行目から)のような部分や重複する箇所は削除してもよいのではないか。地理的なことは大きく地図を載せて説明し、遺跡そのものがどういうものかという重要なことだけを書いて貰えたらよい。

- ・確かにカリンバ遺跡は、こんなに詳細が必要なのか。

- ・2章は韓国の歴史まで出てくる。関連が無いとは言わないが、恵庭市史にここまで当時の韓国の状況を載せなければならないのか。

- ・ここを書いた執筆者の専門が北海道の古代だから、「阿倍比羅夫の蝦夷進攻」、「朝鮮内攻の背景」を踏まえた文章になっている。

- ・このままでは前に進まない。事務局である程度絞ってまとめて、話を進められるようにしてもらわないと。

- ・4節以降を書いた執筆者たちに比べたら、(1から3節は)調整しやすい。この辺りをコンパクトにとか、用語の説明を入れて書けないかとかは言いやすいと思う。

～(事務局)2章を短くすることは無理か。

- ・2章は6節のアイヌ文化の記述と重複があるので簡潔にできないかというところはある。

～(事務局)次回までに、本文の変更ではなく、いくつか試案をつくるので協議してもらいたい。

- ・調整願います。少なくとも編さん委員会の中ではこういった意見があったということを経験者に伝えて、変更ができないかを検討してもらいたい。

～(事務局)次回までに11編「文化財」の原稿も用意して、比較して見てもらえるようにする。

- ・重複している部分を「何ページ何行目参照」として省略させるとかやり方もある。

※次回までに、事務局で修正案を何点か作成し協議することで終了

●その他 「市史の口絵について」

※業務受託者より、以下について説明

- ・前市史と同様に今回も市史の最初にカラーページを設ける。（前市史一覧提示）
- ・今回は上下巻2冊ともに、カラーページを有効に活用できそうな写真を用い、16～20ページずつ入れる予定。
- ・前市史には歴代市長、役職者などの写真あり。掲載希望写真など、次回の編さん委員会で意見を。すでに考古学の分野からは出土品の中で特に色が綺麗なものなどの要望あり。本文で使う予定の写真で、口絵にというものがあれば調整する。

※口絵については、次回検討することで終了